

長期入院患者へのトロミ調整食品の見直しを行った一経験例

香田早苗^{1)*} 田中成美¹⁾ 中尾陽香¹⁾ 中村真由美¹⁾ 橋本由美子²⁾ 土居充³⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター内科栄養管理室

2) 同 看護部, 3) 同 神経内科

Adjusting the volume of thickened foods for a long-term inpatient

Sanae Kouda^{1)*}, Narumi Tanaka¹⁾, Haruka Nakao¹⁾, Mayumi Nakamura¹⁾,
Yumiko Hashimoto²⁾, Mitsuru Doi³⁾

1) Department of Nutrition Management, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

3) Department of Neurology, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: kouda-sanae@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

重症心身障害児（者）病棟に入院の46歳男性患者の嚥下状態が悪化し、嘔気・嘔吐が頻発したのに伴い、形態調整食から濃厚流動食トロミ付に変更したところ、活動量はさほど変化がなかったにも拘わらず、体重増加をみた。提供エネルギー量を調整したが体重増加が止まらず、濃厚流動食、ジュース、お茶に全てトロミを付けるために加えていたトロミ調整食品の摂取量を見直し、おやつも見直し、嚥下能力にあったトロミ食品の選定、およびその使用量の調整を行った。その結果、提供した濃厚流動食にトロミ調整食品を加えることによるエネルギーの増加を、19%から6.5%に抑えることができ、体重増加も止まった。嚥下も安全にできている。また、看護スタッフも、トロミ調整食品の使用方法が適切に行えるようになった。この様に、トロミ調整食品を多目的、多量に使用している患者は、定期的に提供食品の見直しの必要がある。鳥取臨床科学 9(2), 160-163, 2017

Abstract

With a decline in his swallowing function, a 46-year-old male inpatient on a ward for children/persons with severe motor and intellectual disabilities suffered from frequent nausea and vomiting. When changing from blended/mashed foods to thickened high-density liquid diets, his body weight began to increase despite his activity level being unchanged. Energy intake adjustments were not effective to prevent further weight gain. Therefore, the volume of thickened foods added to all high-density liquids, juices, and tea was reviewed. The level of snack consumption was also reviewed, while selecting thickened foods suitable for his swallowing function and adjusting their volume. As a result, the increase in the energy intake due to the addition of thickened foods to high-density liquids was reduced from 19% to 6.5%, and further weight gain was successfully prevented, with safe swallowing ensured. The appropriate use of thickened foods was also promoted among nursing staff. When using large amounts of thickened foods for multiple purposes, it may be

Key words: トロミ調整食品, 重症心身障害児 (者), 体重増加; thickened foods, children/persons with severe motor and intellectual disabilities, weight gain

はじめに

当院の重症心身障害児 (者) 病棟に入院の患者 C 氏の嚥下状態が悪化し、嘔気・嘔吐が頻発したのに伴い、形態調整食から濃厚流動食トロミ付に変更した。それにより、活動量はさほど変化がなかったにも拘わらず、体重増加があった。提供エネルギー量を調整したが、体重増加が止まらず、主治医より相談があった。そこで、必要エネルギー量を調整し、おやつ、トロミ調整食品などの摂取エネルギーの見直しを行い、トロミ調整食品の摂取量を調整することが可能と気づき、提供食の調整を行った事例を報告する。

目的

患者 C 氏の栄養提供量を調整すること、および、嚥下能力に合ったトロミ調整食品の選定と使用量を明らかにし、栄養管理、体重管理が

出来るようにする。

方法

患者 C 氏の体重変化、栄養提供量、トロミ調整食品の使用項目と使用量をそれぞれ調べ、トロミ具合を見ながら、嚥下能力にあったトロミ食品の選定、およびその使用量の調整を行った。

症例

46 歳, 男性

生後間もなく入院し、3 年前の平成 26 年 9 月まで、形態調整食を経口摂取していた (表 1)。嚥下状態が悪化し、嘔気・嘔吐の頻発により食事が中止となり、濃厚流動食 A (エース) 1.5 (クリニコ) のトロミ付を経口摂取することに変更となった (表 1)。その提供エネルギー量を調整したが、体重増加が止まらずであった (表 1)。

表 1. 食事内容とエネルギー量、および体重の変化

年 月(食事内容)	エネルギー量(Kcal)	体重(Kg)
H25. 4(重心米飯みじん)	1511	43.8
H25.10(重心軟飯みじん)	1477	41.3
H26.1(重心パン粥ミキサー)	1585	41.4
H26.9 (A1.5 1050ml)	1848	41.0
H27.7 (A1.5 850ml)	1275	47.7
H28.2 (A1.5 750ml)	1125	49.0

平成 28 年 2 月、依然として体重が増え続けていたので、トロミを付けるために加えていたトロミ調整食品の摂取量を見直した。依然として体重が増え続けていた時の平成 27 年 7 月からの食事内容の現状は以下の通りであった。

A (エース) 1.5 850 ml 1275 Kcal (表 1)
おやつジュース 200 ml 80 Kcal
ソフティア 333 ml 172.5 Kcal
総提供エネルギー 1527.5 Kcal